

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472800374
法人名	有限会社 三輝
事業所名	グループホーム 加美
所在地 (電話番号)	宮城県加美郡加美町上狼塚字東北原12-238 (電話) 0229-64-2280
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20年 3月 17日

【情報提供票より】20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算 9.25人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造	
	1階建て	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(日額)850円	その他の経費(月額)	熱水、日額)350円
敷金	有()円	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり1,000円		

(4) 利用者の概要(03月17日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	0名	要介護2	4名
要介護3	2名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 85歳	最低 67歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団伊藤病院	協力歯科医療機関	内田歯科クリニック
---------	------------	----------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの設立運営法人である有限会社三輝は、加美町と旧米山町にグループホームを開業している。当ホームは加美町商工会議所の協力を得て開設された。開設前の説明会では、町民はグループホームへの理解を示しつつも、なぜこの地区でなければならぬのかと反発し、ホームの周辺へフェンスを設置し、すべての出入り口と窓へ錠前を設置するように求めた。それから4年が経過し、いまではホームへの理解も改まり、住民はホームの芋煮会に参加してくれたり、野菜を差し入れてくれたり、入居者が一人で外に出ているときには知らせてくれたりしている。このホームは有能な職員でなければ優れた介護ができないとして、職員の育成教育と労働条件の向上に力を入れている。職員が新たに介護福祉士の資格を取得すると、資格手当として毎月1万円が支払われる。常勤換算後の職員1人あたりの入居者の数は0.97人となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で改善課題とした、①確実な申し送りと情報の伝達については、入居者の生活歴の記録、生活リハビリ表、バイタルサイン・グラフなどを活用し、二人の職員が三人の入居者を担当して状況を把握することなどによって克服し、②入居者への言葉がけの改善に取り組んでいる。苦情相談の解決責任者の明示と第三者委員の囑託については、まだ改善されていない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組みの状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義とねらいについて、運営者と職員間で話し合い、すべての職員が記入した自己評価を管理者がまとめ、運営者の点検を受けたあと、それを職員に戻してサービス改善の拠り所としている。サービス評価で見出された、①同業者との意見の交流、②入居者やその家族の意見などの掘り起こし、③「輪、和、笑だより」の年に2回の発行などに取り組んでいる。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は06年12月に発足し、その後3ヶ月ごとに開催されている。会議はホームからの事業の報告や施策の提起と、参加者からの意見や要望の聴取により、双方向的に運営され、その状況は議事録として「議事録署名人」の押印を受けて保存している。委員から提起された意見に基づいて定員3人(利用者2人)のデイサービスを実施し、さらに町内の3つのグループホームの連絡会の設置を検討している。今後は評価機関からの評価結果や行政監査の結果も報告し、その改善策も提起することとしている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が来訪したときには声をかけ、必ず入居者の状況を伝えるとともに、入居者のことについて話し合っている。すべての家族に対して毎月1回は、封書に写真と「輪、和、笑だより」(年2回)を同封して入居者の状況を伝え、家族の意見や要望を聞いている。入居者の金銭管理については、家族と口頭で取り決め、その出納状況のコピーを前記の封書に同封して毎月報告している。昨年6月から8月にかけて「家族アンケート」を実施し、改善すべき課題を検討している。</p>
	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>このホームは、町内会(自治会)に加入している。入居者が地域社会の行事(昼間に開催される敬老会、初午祭り、映写会や講演会などの図書館祭り)などに参加している。ホームの行事(バーベキュー、焼き芋会、芋煮会など)には家族の参加を呼びかけ、近在の方々には招待状を送って参加してもらっている。ホームの菜園でとれた野菜を近在の方々とは分け合い、反対に差し入れをもらったりしている。(近隣の広原保育所が廃止統合され、子供たちの声がかかれなくなったことが寂しい限りである。)</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	このホームには「家庭的な生活環境の提供」「人間としての尊厳の重視」との独自の理念があるが、入居者や地域社会のニーズ及びホームの状況などの変化に応じた見直しを行っていない。また、地域密着型サービスの意義をふまえた改定も行っていない。	○	地域密着型サービスの意義をふまえて、すべての職員の英知を結集し、「地域生活の継続」と「地域との関係の強化」などをうたった理念に改めていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で理念について話し合いを持ち、すべての職員が理念の内容を理解している。また、職員の理念を年に2回発行している「輪、和、笑だより」に託して地域社会に発信(入居者の家族への郵送や地域社会への配布)している。職員は、ホームとしての理念と職員としての理念の双方を、自然体で共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	このホームは、町内会(自治会)に加入している。入居者が地域社会の行事(昼間に開催される敬老会、初午祭り、花火大会、映画会や講演会などの図書館祭り)などに参加している。また、近在の方々がホームの行事(バーベキュー、焼き芋会、芋煮会など)に参加し、ホームの菜園で採れた野菜を近在の方々に分けたり、反対に野菜をもらったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの意義とねらいについて、運営者と職員間で話し合い、すべての職員が記入した自己評価を管理者がとりまとめ、運営者の点検を受けた後、職員に戻してサービス改善の拠り所としている。サービス評価で見出された、①同業者との意見の交流、②入居者とその家族の意見などの掘り起こし、③「輪、和、笑だより」の発行などに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は06年12月に発足し、その後3か月ごとに開催されている。会議は双方向的に運営され、その状況は議事録として「議事録署名人」の押印を受けて保存している。委員から提起された意見に基づいてデイサービスを実施し、町内の3つのグループホームの連絡会の設置を検討している。評価機関の評価結果や行政監査の結果も報告することになっている。	○	会議は2ヶ月以内に1回の頻度で開催するよう、特段の努力をしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	このホームは、行政担当者に対して事業への理解と協力を要請し、行政側との話し合いや相談の機会を設けている。行政側からは常に「入居定員の空き」について問い合わせがあり、「空き」の情報は瞬時に介護支援専門員などに伝わるようになっている。ホームの「バーベキューや焼き芋会」避難訓練には消防署の協力を受け、民生委員とも協力し合っている。		
きたい。					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪したときには声をかけ、必ず入居者の状況を伝えるとともに、入居者のことについて話し合っている。すべての家族に対して、毎月1回は封書に写真、「輪、和、笑だより」を同封して入居者の状況を伝え、家族の意見や要望を聞いている。入居者の金銭管理については家族と口頭で取り決め、その出納状況を前記の封書に同封して毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情を、手紙や来訪時に聞いている。出された意見や苦情に対しては、その発生の原因を探り、サービスの向上に活かしている。昨年の6月から8月にかけて3回に分けて「家族アンケート」を実施している。重要事項説明書に、苦情相談の解決責任者を記載していないし、第三者委員も委嘱していない。家族会は結成されていない。	○	運営推進会議を活用しながら苦情相談の受付先として第三者委員を委嘱して欲しいし、その連絡先と苦情相談の解決責任者の氏名を重要事項説明書に明示するとともに、入居者とその家族に説明していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	このホームは、入居者と職員のなじみの関係を重視し、職員の異動を最小限に抑えているが、本年度は二人の退職者があつた。職員の交代が入居者の心理的な負担にならないように配慮はしているものの、むしろ入居者の方が人懐こく開放的で、入居者同士が互の立場に思いをはせながら、新任職員とどのように付き合っていくたらよいかと話し合っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には日常的に学ぶことを推奨し、すべての職員が研修会などに参加できる機会を設けている。職員が外部の研修会に参加した場合には、その内容をすべての職員に報告する機会を設けている。職員が資格取得試験を受ける場合には、試験日は勤務扱いで交通費と日当を支給し、介護福祉士に合格すれば資格手当として毎月1万円が支給される。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	このホームは、県のグループホーム連絡協議会に加入している。すべての職員が同業者と交流する機会があり、その交流の最大の成果は、職員が夢中で過ごしている日々のなかでは気付かなかつた、入居者と介護者との関係を再確認し、そのよい点をホームに帰ってから実践していることであるとしている。さらに町内の3つのグループホームとの相互交流を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が入居する前に職員が会いに行ったり、本人にホームに来てもらって、職員や他の入居者や雰囲気徐々に馴染みながら、本格的な入居に移っていけるように配慮している。本人やその家族と十分に話し合っ適切な時期に入居できるようにしている。家族などの希望が優先し、本人が十分に納得していない場合でも、自然になじめるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者にはその得意な分野で力を発揮してもらい、職員はそれにねぎらいと感謝の言葉をかけている。職員は入居者から大切な生活の知恵や技、生活文化(畑仕事、収穫物の前処理など)を教えてもらっている。入居者と職員の主な共同作業は、調理、食卓の準備と後片付け、洗濯物の干しとたたみ、畑仕事、豆まきやバレンタインデーの行事などである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は本人が入居する前に必ず家庭を訪問して実態調査を実施し、本人の生活歴や生の声を大切に記録し、意識して共感し、いままでの生活を継続できるようにしている。そのようなことが困難なときでも最後まで本人の人間性と人格を重んじている。本人の「現在」や「過去」をよく知っている家族などを交えて、本人の視点にたって支援策を話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	実態調査の際に本人やその家族の思いや意見を聞き、医師や介護支援専門員などのホーム以外の関係者の意見も取り入れ、すべての職員で話し合っ介護計画を作成している。また、本人が地域社会のなかで、その人らしく暮らし続けていけるように、必要な支援を盛り込んだ具体的な介護計画を作成している。介護計画には家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の急変時にはもとより、必要に応じて入居者とその家族及び関係者(医師や行政機関など)と話し合っ、長期的には3ヶ月毎に、短期的には1ヶ月ごとに介護計画を見直している。その場合には、前回の介護計画の遂行状況や効果などを分析し、それをふまえて新しい介護計画を作成している。見直した介護計画も家族に渡して同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が通院するときには職員が付き添い介助をしている。特別な外出や外泊などでも、支援が必要な場合には柔軟に対応している。今年度から定員3人(利用者2人)のデイサービスを開始した。利用予定日以外は当日の日勤勤務者が4人以上なら受け入れることにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	このホームは入居者のかかりつけの医師や医療機関と良好な関係を築き、本人やその家族が希望するかかりつけの医師や医療機関に受診できるように支援している。協力医療機関以外のかかりつけの医師も予約優先診療を実施したりと協力的で、適切かつ安心できる医療を提供してもらっている。医師及び歯科医師が訪問検診を、月に1回は実施したいとしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	このホームは、1度だけ「最期の看取り」を経験しているが、文章化した「最期の看取り」にかかる方針を確立していない。「真剣に考えている家族が少ないので、個別に話し合っていきたい」としているし、「協力医療機関と医療連携体制を結んで、医療行為に対する直接指導や知識を学び、ホーム側からは生活介護を教えたい」としている。	○	医師、看護師、職員などが相談し合って「最期の看取り」にかかる方針を確立し、共有するように努力されたい。また、必要などときには家族を含めた実行体制を確立するように努力していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者を尊重して呼びかけ、本人の承諾を得たうえでその人の居室に出入りしている。職員の入居者への言葉かけや態度や関わり方がかかわりかたがゆったりと柔らかくなるように努力している。個人情報の保護にかかる取り決めがあり、すべての職員がそれを理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、入居者の生活習慣に配慮して、起床、入浴、食事、就寝などの日課的な行為を、本人なりの速さで行えるように柔軟に対応している。一人ひとりの入居者の「その日にしたいこと」を把握し、入居者が主人公になって暮らせるように支援している。入居者は食事とおやつ以外の時間以外は自由に過ごし、居室で常に一人で過ごしている人はいない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の力を活かしながら、調理、食卓の準備と後片付けなどを一緒に行っている。食材は食品会社からの配達になっているが、旬のものや新鮮なものを取り入れ、入居者のし好を考慮した食事を提供している。入居者と職員が同じ食卓で同じ食事を食べ、その雰囲気は和やかで、職員がさり気なく入居者に支援の手を差しのべている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は毎日利用でき、約3分の2の入居者が毎日のように入浴している。入居者の希望により午後からとし、一人ひとりが好きな時に入浴を楽しんでいる。入居前に浴室で転倒した経験から、職員に気兼ねして入浴を嫌がる人がいるが、職員はその人の心情を考慮して時間を空けて入浴を勧めたり、部分浴や清拭で対応している。リフト浴も実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、それぞれの入居者の生活習慣、希望、持っている力、発揮したい力をふまえて、自分の役割や楽しみごとを持つように、または、気晴らしの機会を作れるように手助けしている。それらの行為を通じて入居者に達成感が表われ、“また今度も”との意欲につながっている。入居者の主な楽しみごととしては、読書(新聞や単行本)、漢字練習などがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、入居者の歩行に困難がある場合には車や車いすを利用して、入居者がなじみの店や場所に出かけられるように、個別や2グループに分けて支援している。昨春には、初めて外出先で家族の方との交流を図ることができた。主な外出行事はコスモス苑の観光、もみじ狩り、白鳥見物、敬老会への参加などで、今後はその回数を増やしたいとしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関にかぎをかけていない。職員は、それぞれの入居者の外出の癖や傾向をつかんで対応している。近在の方にも見守りや声がけ、ホームへの連絡をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策にかかるマニュアルを作成し、すべての職員に徹底しているとしている。地域社会の方々の参加と協力を得ながら、毎年1回の避難訓練(夜間想定を含む)を実施している。非常用食糧や水を備蓄していない。職員の非常呼集体制を確立していない。「注意の必要な物品の保管管理にかかるマニュアルがないので、定めて徹底したい」としている。	○	地域社会の方々の協力を得ながら、毎年2回以上の避難訓練(夜間想定を含む)を実施して。また、非常用食糧と水を備蓄し、職員の非常呼集体制を確立すると共に、注意の必要な物品の保管管理にかかるマニュアルを定めて職員に徹底していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの入居者の食事と水分の摂取量を記録している。食事の主菜と副菜の献立は食品会社の管理栄養士が、入居者の嗜好や旬の食材、栄養のバランスやカロリーにも配慮して作成している。ホームではこれらを調理し、主食や代替食を用意し、食べやすい形態(かゆ食や流動食)に加工している。それぞれの入居者の体重を毎月1回測定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者のために共用空間を使いやすく造作し、なじみのものや使いやすいもの、季節が感じられるもの(草花や行事飾りなど)を置いている。照明や換気、温度と湿度が適切に管理されている。職員の会話の音量は、日常的に家庭で話す大きさである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の家族に、本人のなじみのものを持ってきてくれるように働きかけている(少ない家族にはさらに働きかけたいとしている)。それぞれの入居者が、ベッド、寝具、テーブルセット、テレビなどを持ち込んで、自分に適した居心地のよい居室を作っている。ホームでは照明器具、手洗い台、冷暖房装置、障子、畳などを提供している。		